

5.

若手研究者の育成

-
- 1) AIT ワークショップ
 - 2) 大学院における次世代研究者育成
 - 3) 専任・特任教員担当講義

1) AIT ワークショップ⁹

ジェンダー研究所が運営主体を務める国際研究交流プロジェクト

タイのアジア工科大学院大学（AIT）とジェンダー研究所による若手研究者国際交流プログラム

AIT ワークショップは、ジェンダー研究所と、タイのアジア工科大学院大学（Asian Institute of Technology (AIT)）とにより実施されている、国際研究交流プログラムである。

2001 年に、ジェンダー研究センター（現ジェンダー研究所）所属教員と、AIT 「ジェンダーと開発」専攻の日下部京子教授らの尽力によって始められ、2004 年には、本学と AIT との間で大学間学術交流協定が結ばれた。以降、協定に基づき、日本ではジェンダー研究所が、タイでは AIT・環境資源開発研究科が運営主体となり、AIT で実施されるワークショップへの本学院生派遣と、AIT 大学院生の日本国内での研修受入による、国際研究交流事業をほぼ毎年実施している。お茶大ではもっとも歴史が長い国際研究交流プログラムである。

2009 年度からは、AIT ワークショップ・プログラムは、ジェンダー研究センターが従来提供してきた大学院博士前期課程科目「国際社会ジェンダー論演習」として単位認定が始まった。2013 年度はサマープログラムを活用して AIT 院生の日本国内研修を実施し、2014 年度からは大学院博士前期課程科目「フィールドワーク方法論」(2020 年度から「研究方法論コースワーク（フィールドワーク）」) を国内事前研修として取り入れた。

AIT ワークショップ過年度実績

実施年度	研修テーマ
2001	Gender and Development
2002	Gender, Work and Globalization
2003	Women, Globalization and Home-based Work
2004	Female Migrant Workers' Rights in Thailand
2005	Gender and Development in Thailand: Labor rights and violence against women
2006	〔実施せず〕
2007	Gender, Rights and Empowerment
2008	Thailand-Japan Interactive Research Actions by Using Gender Perspectives
2009	Gender and Policy: Through Thailand-Japan Interactive Analysis
2010	Gender and Social Change: Comparative Analysis of Thailand and Japan
2011	Gender and Disaster 〔特別プログラム：本学でのシンポジウム開催〕
2012	Sexuality
2013	Global Justice, Women's Health and Prostitution
2014	1) Sexuality, 2) Gender and Poverty, 3) Education and Empowerment
2015	Labor, Sexuality and Empowerment
2016	Labor and Association from Gender Perspective
2017	Sexual minority and migrant workers from gender perspectives
2018	Power and Sexuality from Gender perspectives
2019	Gender and Empowerment in Urban Space
2020、2021	〔院生派遣は見送り〕
2022	Education from intersectional Perspective
2023	After Covid-19

大学院講義「国際社会ジェンダー論」での学習とグローバルなフィールドでの実践・交流

本ワークショップの日本からの参加者は、春学期に大学院科目「研究方法論コースワーク（フィールドワーク）」を履修し、開発とジェンダーにかかるグローバルな課題群の分析方法や視座、海外におけるフィールド調査方法を学ぶ。その後にアジア諸国の将来を担う多彩な人材が集う AIT での研修に参加し、フィールドワークに基づく研究の基礎を実践的に学習する。また各国の院生たちとワークショップで研究交流することで、彼らの熱意ある議論スタイルや問題関心の多様さから研究者としての刺激を得る。帰国してからはジェンダー研究所所属の特任講師が担当する「国際社会ジェンダー論」(本報告書 58 頁参照) にて、タイで得た知見を共有し、国際社会におけるジェンダーの問題の理論的検討を通じて、さらに理解を深める。また参加者は毎年、タイでの研修内容を報告書にまとめている。

ジェンダー研究所は、このような大学院生の国際研究交流プログラムを提供し、大学院生の教育カリキュラムを補強することで、次世代のジェンダー研究者、あるいは、NGO や国際機関で国際協力の仕事につく人材の養成に持続的に取り組んでいる。

■2023 年度 AIT ワークショップについて

AIT ワークショップへの本学院生の参加者は、まず国内事前研修に相当する「研究方法論コースワーク（フィールドワーク）」の授業をとり、AIT への派遣に備えて学ぶこととなる。

7 月に AIT 院生が来日をしたが、本年度の AIT 院生たちの研究テーマは、移民や難民、そして外国人労働者についてであった。そうしたテーマに合わせて IGS 所属教員と、学外の関連団体や研究者からも多大なる協力を得て、日本における難民、移民、外国人労働者の政策と実態、そしてそれらと交差する形でのリプロダクティブ・ヘルス／ライツやセクシュアリティ、ジェンダー差別などの具体的な状況を学ぶプログラムを組み、インタビューやフィールドワークを実践する機会を設けた。プログラム参加の本学院生はすべての日程でサポートに入り、適宜、通訳や説明の補足を行なったが、これもまたこのプログラムならではの実践の一つである。

8 月末からは本学院生がタイへと派遣され、AIT の日下部京子教授のもとで組まれた充実したプログラムに沿って研修を行ってきた。本年度は 11 名という過去最多の参加者だったが、しっかりと問題意識を持った院生たちは自身の関心に基づいたインタビューをし、各種レクチャーを受け、貴重な経験を積んできた。日本とタイからの参加者によるそれぞれの報告会では、充実したフィールドワークの成果が報告され、質疑応答も活発に行われた。

タイからの帰国後に本学の参加者たちは「国際社会ジェンダー論」で、タイでのフィールドワークや AIT での学びを言語化し、報告会と報告書作成に向けて共同作業で準備を進めていった。これは派遣されたという経験で終わらせることなく、その経験を咀嚼し、グローバルな流れの中に位置づけ直し、自身の見聞きした情報を体系づけていく作業を通してより理解と思索を深める機会を得るためである。

「ジェンダーと開発 (Gender and Development: GAD)」にかかる課題群の分析方法や視座、また海外におけるフィールドワークの基礎を学ぶことが目的の本プログラムによって、参加者は国際協力や開発援助、市民運動に直に触れ、フェミニスト視点から議論する機会を得ることができたといえるだろう。

2) 大学院（人間文化創成科学研究科）における次世代研究者育成

ジェンダー研究所はジェンダーの視点から学際的・国際的な研究を推進する次世代の研究者育成も行っている。IGS 所属教員の指導のもと、2023 年度は以下の院生が博士前期課程・博士後期課程を修了した。

2023 年度 博士前期課程（ジェンダー社会科学専攻）修了者

● IGS 所属教員が主査を務めた 2023 年度博士前期課程修了者と論文タイトル

【氏名】河 裕珍

【主査】申 琦榮（IGS 教授）

【修士論文タイトル】

日本における同性婚の可能性と同性パートナーシップ制度 ——婚姻制度と家族制度の排他性に着目して—

【要旨】

本論文は同性間の結婚を排除している制度を明らかにすることで、なぜ日本では同性婚が法制化されないのか、特に制度的阻害要素を明らかにすることを目的とした。主に文献研究を通じてアメリカと台湾の事例及び自治体間の制度の比較を行ったうえで、日本の結婚制度及び家族制度の歴史を整理し、戸籍制度の排他性について歴史研究と裁判事例を中心にまとめた。また同性パートナーシップ制度について整理し分析を行った。結論として、日本の結婚制度、家族制度、戸籍制度は同性婚を排除していることが分かった。

● IGS 所属教員が副査を務めた 2023 年度博士前期課程修了者と論文タイトル

【氏名】山本 菜々美

【副査】申 琦榮（IGS 教授）

【修士論文タイトル】

現代日本における中国人への排外主義 ——保守論壇誌における中国人表象の分析から—

【氏名】GUAN CHUXUAN

【副査】大橋 史恵（IGS 准教授）

【修士論文タイトル】

現代中国の男性性の変容と多様化

【氏名】YAO YICHEN

【副査】大橋 史恵（IGS 准教授）

【修士論文タイトル】

授乳期における女性の身体と家庭空間の関係 ——中国北京市・天津市を事例に—

● IGS 所属教員が副査を務めた 2023 年度博士前期課程修了者と論文タイトル

【氏名】LEE HUI WERN

【副査】大橋 史恵（IGS 准教授）

【修士論文タイトル】

日本社会における「同性愛」と「老い」に関する研究

【氏名】ZHAO WENQI

【副査】大橋 史恵（IGS 准教授）

【修士論文タイトル】

中国の離婚救済制度の適用状況について ——シングルマザー女性に対する調査から—

2023 年度 博士後期課程（ジェンダー学際研究専攻）学位取得者

● IGS 所属教員が主査を務めた 2023 年度博士後期課程学位取得者と論文タイトル

【氏名】高橋 加織

【主査】大橋 史恵（IGS 准教授）

【博士論文タイトル】

経済のグローバル化の下での越境的接客労働とジェンダー ——クアラルンプールにおける現地採用日本人女性ホテルスタッフの事例—

【要旨】

本研究は、マレーシア・クアラルンプールとその近郊に立地するインターナショナル・ホテル・ブランドの傘下の高級ホテルに勤務する日本人女性スタッフの労働のありかたを「越境的接客労働」と位置付け、その労働の実態を明らかにする実証分析である。クアラルンプール大都市圏の高級ホテルで観察を実施するとともに、現地採用スタッフとして接客労働に従事する日本人女性 10 人に半構造化インタビューを行なった。

日本人女性ホテルスタッフは、日本とは異なる言語文化圏の出身者である関係者との対人的な衝突・交渉を必要とし、またマレーシアに渡航する日本人顧客を専門的にサポートするために雇用されていた。彼女たちはリブイン（ホテルに住み込みで働くこと）で働き、日本人出張者の労働力再生産を引き受けしており、「やりがい」を重視する規範を内面化した状態で中抜け勤務やオンコール就労に対応していた。この点で彼女たちは、マレーシアにありながらも日本企業の労働慣行を再現する「飛び地」のような労働関係におかれていた。また、その「飛び地」の形成は、日本人出張者らのマレーシア滞在における軋轢や摩擦を、緩和しあるいは軽減する役割を果たしていた。

3) 2023 年度 IGS 専任・特任教員担当講義

《人間文化創成科学研究科博士後期課程ジェンダー学際研究専攻》

申琪榮（教授）

比較政治論（前期）

比較政治論演習（後期）

大橋史恵（准教授）

ジェンダー学際研究報告（発展）（通年不定期）

ジェンダー政治経済学（前期）

ジェンダー政治経済学演習（後期）

《人間文化創成科学研究科博士前期課程ジェンダー社会科学専攻》

申琪榮（教授）

フェミニズム理論の争点（前期）

国際社会ジェンダー論演習（前期）

ジェンダー立法過程論（後期）

大橋史恵（准教授）

ジェンダー社会経済学（前期）

ジェンダー社会経済学演習（後期）

嶽本新奈（特任講師）

国際社会ジェンダー論（後期）

※（本報告書 54～55 頁「AIT ワークショップ」参照）

《学部》

戸谷陽子（教授）

英文学特殊講義VI（後期）

申琪榮（教授）

ジェンダー8 政治・政策とジェンダー（後期）

大橋史恵（准教授）

アジア社会とジェンダーII（前期）

グローバル化と社会（後期）

グローバル文化学実習II（通年不定期）

グローバル文化学総論（前期）

文化変動論II（前期）